

取極注意

参考情報乙第四三號

昭和二十一年四月二十五日
資料部

「トルーマン」大統領等ノ演説ヨリ得タル米歐ノ戰後對外政策

一 要 旨

戰後ハ米歐一トルーマン大統領及一ハインズ國務長官ノ演説要旨ヲ綜合スルニ米歐ノ對外政策ノ在リハ一平和ト自由ニ對スル希望アリ。コレノ直接目標ハ國際聯合ノ支持及全ト國際自由經濟ヘノ恢復トデアル。

ソシテ最近ニ於ケル國際政局ノ變遷ニ對シテモ能ク迄右政策ヲ堅持シテ泰然タル態度ト隱忍自重ヲ期シテサルト共ニ反面、戰力維持ノ必要ヲ強調シテサル。米歐ノ戰後政策ハ右基本政策ニ準據シ民主主義國家ノ建設ト經濟的援助デアル。

二 國際聯合ノ育成強化ト國際經濟復興ノ支持

27/10 「トルーマン」大統領ハ「ニューヨーク」ニ於テ十二ヶ條ノ米歐基本外交政策ハ附録第一ノヲ發表スルト共ニ「大新報」年頭敍言ニ



0502



2.
28/2

於テ右政府ヲ變ニ引凡シ一正義ト實力トヲ基調トスル平和建設ニ努
カス特に國際戰爭阻止ノ爲ノ國際聯合協定ノ遂行ニハ全力ヲ擧ゲテ
之ヲ官成支持シ發展セシムルヲ以テ米國不斷ノ外交政策ナリ。ソシ
テ對外經濟政策ハ自國ノ繁榮ヲ促進シ同時ニ世界市場ノ回復ト擴張
トヲ援助シ世界ノ平和ト安全トニ寄與スル方針ナリ。ト述ヘリ
（附録第二）ヲ發シ更ニ

イ、米國ハ恒久平和ノ爲國際聯合ノ旗幟ノ下ニ希望ヲ繫イデヤル。
ロ、國際聯合ガ其機能ヲ發揮シ聯合各國民ガ夫々ノ責任ニ應ズル役割
ヲ完全ニ果ス場合ニ於テ成功スルダラウ。
ハ、米國ハ國際憲章ニ具現サレタ各條ヲ實踐スル爲以外ニハ武力ヲ行使
シナイト誓言シタガ本國トシテ又國際聯合ノ一員トシテ吾々ノ勢
力ヲ行使シテ他國ニ其誓約ヲ棄ルヤウ配慮スル責任ヲ有ス。
ニ、吾々ハ一方的ナリ現狀維持ヲ欲シヨウトスル行動ヲ看過シ得ズ。

0503

ト強調シ蘇聯ノ對滿。對一イラン。英。軍。ノ。フ。シ。リ。ア。レ
バノシ。兵。間。題。等。ニ。關。連。シ。歐。戰。事。合。意。章。ト。下。歐。戰。情。勢。ト。ノ。調。整
ニ。努。力。シ。ア。リ。

3. $\frac{16}{3}$ 「バーンズ」威利長官ハ英蘇關係ノ改善化ハチャールノ對蘇攻
撃。ニ。件。ビ。世。界。平。和。ノ。爲。武。兵。力。維。持。ノ。必。要。ヲ。強。調。ス。ル。ト。共。ニ。

「吾人ハ國際聯合憲章ヲ保全シ憲章ヲ支持スル爲等ノ努力ヲ行使
スルコトヲ主要目的トシテモ々ハ軍事力ヲ維持スル
モ々ハ軍事力ヲ國際目的ニ使用セス暴君制ヲ排除スル爲ニモ
行使シナイート稱シアリ。

$\frac{6}{4}$ 「トルーマン」大統領ハ此軍日ニ於テ

「平和ト自由トニ對スル希望」ハ米歐外交政策ノ眞ノ根柢デアリ
之。力。爲。サ。シ。ア。タ。ツ。テ。ノ。目。標。ハ。全。力。ヲ。ア。ゲ。テ。國。際。聯。合。ヲ。支。持。ス。ル。コ。ト
デアアル。

更ニ米歐ハ平和防衛ヲ巨メルヲ世界通商機構ニ對シテモ必要ナル

支持ヲ與ヘルデラウ

ト演説シ米國外交非獨方針ヲ歸スルト共ニ時ニ平和世界ノ國家間ノ信誼ヲ維持スル爲ニハ指導權ノ行使ヲ必要トシ之ガ爲米國ハ今後其十分戰力維持が必要デ次ノ三方策ヲ採申スルト述ヘサリ。

イ、全軍事力ヲ單一省ニ統合スルコト

ロ、現行選拔徴兵法ヲ延長スルコト

ハ、全國的訓練制ヲ實施スルコト

三、米國ノ極東政策

米國ノ極東政策ハ前述米國基本的外交政策ニ包含セラレマシ又「トルーマン一大統領ノ年頭演説ニ於テモ同様ノ見解ヲ示シ特ニ對日政策トシテハ

一、日本ガ再び在歐戰爭ヲ開始出來ヌ様一切ノ武器ト戰爭遂行機關ヲ解体シ、社會機構ヲ根本的ニ變更シテ民主主義ヲ實現ヲ育成強化スルコト
整頓シテキルコト

6/4ノ陸軍日ニ於テモ右を要スルニハ何等ノ事ナキを極力要請スルヲ開

0505

發ニ歸シ接取ノ片言アルヲ隨言シテアル。

匪日ニ於ケル極東政策ニ關スル演說要旨ハ次ノ如キモノデアル。

米國ノ極東政策要諦ハ日本ガ再ビソノ聯邦ヲ襲フコトガ出來ナイ様ニ
スルコト、且チ日本ソ武装ヲ解除シテ民主々々の平和的國家ノ建設ヲ
促進スルコトデアル。

朝鮮ニ對シテハ臨時民主政權ノ建設ニ努メ中國ニ對シテハ自由且民主
主義的政權ノ支援ニ努メツツアリ。比島ハ⁴/₇全面のナ主權獨立國トナ
ルダラウ

然シ貧困ト經濟的苦難ノ中カラハ民主主義ノ培養ハ困難デアル。
從ツテ極東各國ノ復興ト開發トヲ支援スルノハ吾々ノ平和戰時ノ一端
デアル。

吾々ハ極東ニ於ケル經濟的活動ト國際貿易ノ遂ナル復活ヲ支援シナク
テハナラヌ

之ガ爲メ國ハ一クレジットト一技術的援助ヲ與ヘル用意ヲ持ツテキル

0506

四 参 考

國際聯合ノ目的及原則（附録第三）

0507

附錄第一

「トルーマン」大統領ノ基幹的外交政策

(一九四三年十月二十七日)

- 一、我々ハ絶對ニ領土の膨脹乃至利己の便益ヲ追求セズ大小何レノ國ニ對シテモ全然侵略ノ計畫ヲ抱イテキナイ我々ハ他國ノ平和的諸目的ト必然的ニ衝突スル如キ目標ヲ持ツテキナイ
 - 二、我々ハ力ニヨツテ主權ト自治トヲ剝奪サレタスベテノ國民ニ宛極ニ於テコレガ復歸スルコトヲ確信スル
 - 三、關係各國民ノ自由ニ表明サレタ希望ニ合致シナイ限り世界ノ友好的部分ニ於ケル領土ノ變更ヲ承認シナイ
 - 四、自治ノ準備ノ出來テキル一切ノ各國民ハ外國ノ源泉カラノ干涉ヲ受ケズニ自身ノ自由ニ表明サレタ選擇ニ基キ自身ノ統治形態ヲ選擇スルコトヲ許サレネバナラナイ
- ソハ西半球ニ於テノミナラズ歐洲「アジア」、
「アフリカ」各大

陸ニ於テモ眞理デアル

五 戦時ニ於ケル聯合軍ノ團結協同行動ニヨリ敗北シタ各敵國ガ自身ノ自由ヲ選舉ニ基キ平和的ナ民主主義政體ヲ建立スルノヲ支援シ「ナチズム」「ファシズム」並ニ軍事的侵略ガ存在シ得ナイ世界ノ實現ニ務メルヲ欲テアル

六 何レノ國ニ於ケルトモ關ハズ外國カラノ方ニヨツテ押シ付ケラレタ如何ナル政府ヲモ承認シナイ或ル場合ニハカナル政體ヲ力ヅクテ押シ付ケヨウトスルノヲ阻止出來ヌコトモアラウガ米國ハカナル政體ヲ承認シナイ

七 スベテノ國々ガ海洋ノ自由ヲ享受シ陸路、河川、水路並ニ一國以上ヲ通過スル河川ト水路トニ關スル平等ノ權利ヲ享受スベキダト確信スル

八 國際社會ニ受ケ入レラレタ一切ノ國々ハ平等ナ條件デ世界ノ貿易ト原料トニ近付タコトガ出來ネバナラナイト信スル

カ
九 西半球ノ各主權國ハ西半球以外カラノ干涉ヲ受ケズニ其ノ共通ノ諸問題解決ニツイテ善隣トシテ協力セネバラナイ

一〇 大小スベテノ國々ノ間ニ於ケル全面的經濟合作ガ全世界ヲ通ジテ生活條件ノ改善ト恐怖カラノ目田缺乏カラノ自由ヲ確立スルニ絶對必要ダト確信スル

一一 世界ノ平和ヲ愛スル領域ヲ通シ意見表示ノ自由ト信教ノ自由トヲ促進スルタメ引續キ努力スル

一二 各國間ノ平和ヲ保全スルニハ平和ヲ保障スルニ必要ナ場合相携ヘテ力ヲ行使スル用意アル世界ノ平和ヲ愛スル一切ノ國々ヲ以テ構成サレル國際聯合組織ヲ必要スルト確信スル

0510

附錄第二

ハインズ國務長官ノ外交方針

(一九四六年十二月二十七日)

一、國際憲章ノ目的ト原則トミ合シ力又ハ力ノ威嚇ガ行使サレル場合ニハワレ
ワレハ傍觀セズマタ傍觀出來ナイ

二、當該國ガ自由ニ承認ヲ與ヘナイ限りワレワレハ他ノ主權各國内ニワ
レ毎ノ國家ヲ維持出來ナイ

三、講和條約ノ締結ヲ引キ延バシ實之ナ各小國ニ引續キワレ等ノ宣戰ヲ
オシカブセテオイテハナラナイ

四、聯合國ノ間ニ賠償處理系ガ設定サレルマデ、被解放各國マタハ前備
星各國ニオケルイハユル敵艦ヲ勝利ニ處分スル權利ハ何レノ國モ持
ツテ非ナイ

何レノ國タルヲ問ハズ或ル一國ガコレ等ノ國々カラ何ヲ持チ出スカ
フ決定スルコトハワレワレハ從不同意シタコトナク、今後モ同意シ
ナイ決心デアル

0511

五、戦略的暗目的ヲ達成スルタメニ神速戦争ヲ遂行シテハナリ
六、何レノ國モ戦争ヲ企圖シナイガ例レノ國モ戦争ヲ遂行ケルコトガ出来
ヌアウナ情勢ニヨロヨロオチ込ムコトヲ繰返シタクナイ
七、平和ヲ迄始ニ陥レル虞アル事感ニツイテ注意ヲ喚起スルコトヲ力カ
ル事感ニツイテ實ニアル一國マタハ數ヶ國ニ對スル非難ト解シテハ
ナリナイ

0512

附錄第一

第一條

國際聯合ノ目的左ノ如シ

一、國際の平和及安全ヲ維持スルコト及之方爲左ノ措置ヲ執ルコト即チ
平和ニ對スル脅威ノ防止及除去ノ爲並ニ侵略又ハ他ノ平和破壞行爲
ノ蠲除ノ爲ノ有效策國のナル措置ヲ執ルコト並ニ平和ヲ破壞スルニ
至ラシムルコトアルベキ國際的紛争又ハ事感ノ調整又ハ解決ヲ平和
的手段ニ依リ且正義及國際法ノ原則ニ從ヒ成就スルコト
二、各民族ノ同權及自決ノ原則ノ尊重ヲ基礎トスル各國間ノ友好關係ヲ
發展セシムルコト並ニ世界の平和ヲ強化スルタメノ他ノ適當ナル手
段ヲ執ルコト

三、經濟的、社會的、文化的又ハ人道的性質ヲ有スル國際的問題ヲ解決
シ並ニ人權ノ尊重及人權ノ伸張、言語又ハ宗教ニ關スル問題ノ解決

0513

切ノ者ニ對スル基本の自由ノ尊重ヲ功ニシテ
成スルコト並ニ

與右ノ共同目的ノ達成ニ當リ各國ノ行動ノ
第二條

本機構及其ノ加盟國ハ第一條ニ記述セラレタル
原則ニ從ヒ行動スベシ

一、本機構ハ其ノ一切ノ加盟國ノ主權平等ノ原則ニ
二、一切ノ加盟國タルノ地位ヨリ生ズル權利及利益ヲ

保障スル爲其ノ本憲章ニ從ヒ負エタル義務ヲ
三、一切ノ加盟國ハ國際平和及安全並ニ正義ガ危殆ナラシメアレザルガ

如ク平和的方法ニ依リ加盟國ノ國際紛争ヲ解決スベシ
四、一切ノ加盟國ハ其ノ國際關係ニ於テ如何ナル

的獨立ニ對シテモ強力ヲ以テ脅威シ得ハズ
目的ト兩立セザル他ノ如何ナル

五 一切ノ加盟國ノ國際聯合ガ本憲章ニ從ヒテ孰ル如何ナル行動ニ付テ
モ右聯合ニ對シ一切ノ援助ヲ與フベク且國際聯合ガ防止的又ハ強制
的行動ヲ執リツツアル如何ナル國ニ對シテモ援助ヲ與フルコトヲ懷
ムベシ

六 本憲章ハ國際聯合ノ加盟國ニ非ザル國ガ國際的平和及安全ノ維持ニ
必要ナル限ニ於テ右原則ニ從ヒ行動スルコトヲ確保スベシ

七 本憲章ニ掲ゲラルル如何ナル規定モ本實上何レカノ國ノ國內管轄權
ノ範圍内ニ在ル事件ニ干渉スルノ權能ヲ國際聯合ニ與フルコトナカ
ルベク又右事件ヲ本憲章ニ依ル解決ニ附託スルコトヲ加盟國ニ對シ
要求スルコトナカルベシ但シ右原則ハ第七章ニ依ル強制措置ノ適用
ヲ妨グルコトナカルベシ